

新 雲仙プロジェクト通信 3号

平成25年3月30日(土) ~ 31日(日)

【今期最後の雲仙プロジェクト】

2月の予定が雪で中止となり、年度末最後の日程での最終の雲仙プロジェクトとなりました。昨年度末に松本由利さんのご縁で出会った NPO 法人・奥雲仙の自然を守る会の皆さん方の現状と目指すところが十分理解でき、次年度に向けて様々な構想が膨らむ形で今年度を終えることができました。

野鳥巣箱の設置

30日午後からは、保育園児が絵付けをした24個の巣箱を、5月より黒毛和牛が放牧される牧場の木に設置しました。これは、「守る会」の木田さんを中心に行いましたが、何事も初めての作業は終わる頃に要領を会得というのが通常で、一個一個、絵付けをした園児たちの思いを胸に抱きながら、という余裕は正直言ってありませんでした。皆、今回はきっと、という気持ちで作業を終えたのです。



園児が着色した巣箱



平気で高いところの巣掛けをする地元の荒木さん



しっかり支える金尾さん



矢ヶ部も形だけ協力

守る会・中田代表との意見交換

中田代表は、20年間のご自身の来し方、この地を活動の拠点とした経緯、そして、現在の活動と今後の方向性について語られました。これからの展開については、既に実施中の「グリーンツーリズム体験宿泊」等、自然環境を活かした滞在・体験型観光の拡充。特産品開発については、商品化された「柚子」の加工品に加えて、牧草地に自生し放牧に支障が出始めた「赤松」の伐採とその葉から抽出される有効成分の商品化について研究中です。

課題は、場所が国立公園内のあるという関係で、様々な規制があり監督省庁との折衝と、事業のPR

活動、及び活動資金調達ということになります。24年度は内閣府の事業で県が市と連携して行うNPO法人支援事業「新しい公共の場づくりモデル事業」に自ら応募し採択され実施してこられました。今後は、行政の支援策とともに民間企業のCSR活動との連動を模索する必要があります。

ミヤマキリシマの群生復活に向けて

草原の牧場内に多く自生するミヤマキリシマは、雑草や雑木によって覆われたままになっていましたが、それを「守る会」で整備・復活させる計画は、本来、2月に共助研メンバーも一緒になって実施することになっていました。しかし、雪で中止となり、開花の時期も迫っていたこともあり、後日、「守る会」事務局の木田さんと地元メンバーで行われ、今回は、その結果を拝見することになりました。前回の下見の時と比べて見違えるように整備されており、写真で見ると、枯れ木の集まりのように見えますが、近くで確認すると、ちゃんと蕾が付き、5月の一斉開花が楽しみなところです。

懇親会で、さらに理解を深める

夜の懇親会は、野草や地元産の野菜を中心とした料理で、ユキノシタやセロリは食べたことはありませんでしたが、びわの若葉のてんぷらは初めての経験でした。さすがに、揚げ方が絶妙な本格的な精進料理で、しかも、健康に配慮した油も使っておられるとのことでした。この席でも中田代表や木田さんとの意見交換も進み、ほぼ、意思疎通が円滑に出来るようになったことを確信できました。



ノルディックウオーク

31日は朝食を前に、2本のポール(ステイック)を両手に、靴のまま山野を歩くクロカンスキーのような「ノルディックウオーク」を体験しました。これは、グリーンツーリズムの体験宿泊のメニューにも組み込まれているもので、2本のポールで支えるため、身体の安定も保たれ、かつ、上半身も鍛える全身運動として最適なものであることを実感しました。



さっそうと歩く事務局長

リハビリ風景そのものの山下さん

シーズンに向けたトレイルセンターの整備

朝食の後、田代原トレイルセンター周辺の雑草除去作業を、「守る会」の呼びかけで集まった地元メンバー約 20 名の方々と共に行いました。初対面にもかかわらず、フレンドリーは方々ばかりで、今後の事業展開の協力体制にも期待が持てるところです。

センターに隣接するキャンプ場の芝生部分はイノシシが荒らしまわり（写真）、5月のオープンが懸念されます。整備しても、毎年、このようなことが繰り返され、県も市も困り果てているということでしたが、この地区の観光集客の「要」だけに検討が必要でしょう。皆さん、良いアイデアがあったらお教え下さい。



トレイルセンター周りの清掃活動に参加した山下さん(上)
金尾さん(右上)、木寺さん(右)

季節の素材を活かした生け花教室

地元の大勢の奥様方に混じって、生まれてはじめての生け花にチャレンジしてきました。先生は、花芸安達流の岩永三千瞳先生と、稲尾先生。「自然の心をいける」ということ、自然の生命、季節、生態を生かし、自然の生命を芸術的に表現するというお話を聞いた後、それぞれがチャレンジしました。後は、最後のページの作品を見ていただければと思いますが、波木事務局長のすでに完成品に近いと皆が感銘した作品や、春の期待満載の桜尽くしの木寺さんの作品、闇雲に突っ込んだ矢ヶ部の作品。それぞれの人格・品格がもろに作品に出ているようです。



龍馬も歩いたパワースポット

日本で最初に国立公園に指定されたのは、瀬戸内海、霧島、そして、この雲仙です。今回、活断層のこの道（写真）が、かつては参勤交代にも使われた幹線道路で、勝海舟に従って坂本龍馬が島原から長崎に向かって歩いた形跡のあることも分かりました。なんと、日本最初の国立公園には、すべて龍馬の足跡があるのです。偶然かそうでないか、想像力の働かせどころです。

「てれんぱれんカフェ」

午後からは、松本夫妻が竹添えハウスで始めた「てれんぱれんカフェ」に伺いました。地域の集会場兼、外部からの立ち寄り所兼、地域クリエイターの逸品の展示即売場です。松本夫妻の感性が各所に感じられるしつらえでした。



くつろぎの一こま



カフェのマスター 松本さん

今後の活動予定

5月中旬の、「龍馬も歩いたパワースポットでミヤマキリシマを独り占め」を皮切りに、「ヤマボウシ」の時期、紅葉の時期、そして、冬と、奥雲仙の四季の魅力を確認しながら「守る会」の活動をサポートできればと考えています。皆さんもぜひご参加下さい。



展望所にて、
今回の参加者全員で記念写真

写 真 集



巣箱据付のメンバー集合写真です



初生け花の作品の集合写真です（左から、木寺作、波木作、矢ヶ部作）



金尾さん撮影の BEST ショット

